

トマト類を栽培されている皆様へ

令和5年7月

海外からの侵入害虫**トマトキバガ**について、県内でフェロモントラップへの**まとまった誘殺を令和5年6月に確認**しています。

成虫は非常に小さな蛾（ガ）で、幼虫は葉に潜り、ハモグリバエ類と似た**工カキ症状**を示すとともに、幼虫は**果実にも穴を開け、侵入**します。

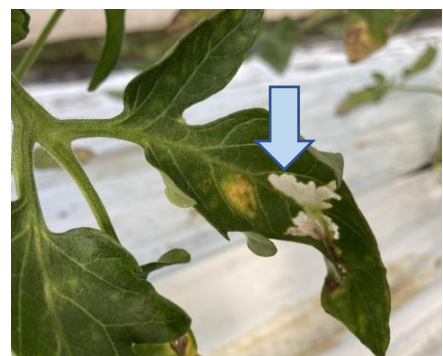
海外では農薬に対する抵抗性発達の報告があり、地域に蔓延すると防除が難しいため、以下の被害や虫を見つけたら、ご連絡ください。



成虫(体長:5~7mm)



幼虫(体長:終齢で8mm)



工カキ症状(薄皮が残る)



成虫



幼虫



果実症状(果実に侵入)

被害の特徴：幼虫が葉に潜って食害し、薄皮を残して透けた状態になる。
果実では、ヘタと果実の隙間付近から果実内に侵入することや
果実表面から内部に侵入することがある。

卵～成虫までの期間：24～38日

海外で報告されているトマト以外の寄主植物：ナス、ピーマン、バレイショなど

疑わしい症状がありましたら、裏面記載のお近くの農業改良普及センター
または病害虫防除・肥料検査センターにご連絡ください。

トマトキバガのハウス内への侵入・定着を防ぐために、以下の対策を行きましょう。

●促成栽培の方は・・・

・片付けの時は必ず**蒸し込み**を行きましょう。

※蒸し込みの際は、地際部を切断し、枯れやすくしてから蒸し込みを行います。蒸し込み期間は10日間を確保します。その後、残渣をハウス内から持ち出し、適切に処分します。

●夏秋栽培の方は・・・

・1mm目合い以下の**防虫ネット**を設置しましょう。

・ほ場内をよく見回り、**早期発見**に努めましょう。

※疑わしい症状を発見したら、下記連絡先に相談してください。

●仮に、トマトキバガの発生が確認された場合は、以下の対策を取るようになりますので、まずは下記までご連絡下さい。

・**薬剤防除**を行います。

現在、トマト類のトマトキバガに登録のある薬剤は表のとおりです(令和5年7月5日現在)。薬剤の選定については、下記連絡先に相談してください。

	農薬の種類	登録作物	
		トマト	ミニトマト
1	スピネトラム水和剤	○	○
2	アバメクテン乳剤	○	×
3	クロルフェナピル水和剤	○	○
4	シアントラニプロール水和剤	○	○
5	シアントラニプロール水和剤(灌注)	○	○
6	シアントラニプロール粒剤	○	○
7	フルキサメタミド乳剤	○	○

※5以外の登録薬剤の使用方法は散布

	農薬の種類	登録作物	
		トマト	ミニトマト
8	脂肪酸グリセリド・スピノサド水和剤	○	○
9	ピリダリル水和剤	○	○
10	エマメクテン安息香酸塩乳剤	○	○
11	インドキサカルブ水和剤	○	×
12	メタフルミゾン水和剤	○	○
13	フルベンジアミド水和剤	○	○
14	テトラニプロール水和剤	○	○
15	B T 水和剤	○	○

・**被害果や被害葉には幼虫が潜んでいる可能性がありますので、適切に処分します。**

※詳しい処分方法につきましては下記連絡先に相談してください。

**疑わしい症状がありましたら、お近くの農業改良普及センター
または病害虫防除・肥料検査センターにご連絡ください。**

中部農業改良普及センター	☎0985-30-6121	南那珂農業改良普及センター	☎0987-21-9550
北諸県農業改良普及センター	☎0986-38-1554	西諸県農業改良普及センター	☎0984-23-5105
児湯農業改良普及センター	☎0983-43-2311	東臼杵南部農業改良普及センター	☎0982-68-3100
東臼杵北部農業改良普及センター	☎0982-32-3216	西臼杵農業改良普及センター	☎0982-72-2158
病害虫防除・肥料検査センター	☎0985-73-6670		